ジャック・ロンドンの経歴

１８７６	０歳	John Griffith Chaney がサンフランシスコのスロットの南側で誕生。父は William Chaney、母は Flora Wellman。母が心霊術の会で知り合った実直な労働者である John London と結婚。最初の父親は、アイルランド系の占星術師で、結婚は正式なものではなく、母親は前年に自殺未遂。チェイニーはジャックの親であることを否定。
１８７７	１歳	義理の姉であるイライザとアイダは孤児院から一家に合流する。チェイニーとの間にできた男児ジョンは、父親と区別するために、ジャックと呼ばれる。ジャックの世話には、奴隷体験のある黒人ヴァージニア・プレンティス（愛称ジェニー）があたる。一家はオークランドに住み、食料品店を始めるが失敗し各地を転々とする。
１８７８	２歳	ジャックとイライザはジフテリアにかかり、一家はサンフランシスコからオークランドに引っ越す。
１８７９	３歳	家庭で一人ぼっちになり、孤独感や恐怖感にさいなまれる。
１８８０	４歳	義姉のイライザに学校に連れて行ってもらう。
１８８１	５歳	一家は、サンフランシスコ郊外のアラメダの農場に住み、野菜やトウモロコシを作る。貧しい生活が続く。
１８８２	６歳	母親が降霊術にこっていたために、ジャックの家は「幽霊屋敷」と地域の子どもたちから呼ばれる。こうしたことから、ジャックは孤独で神経質な子どもになる。ウェストエンド・スクールに入学する。
１８８３	７歳	一家はサンマテオの農場に引っ越す。ひもじさのあまり、女子の級友の弁当から肉を盗む。
１８８４	８歳	読書の味を覚え、時間を見つけては成功物語などを読む。店で売られている下着を初めて買ってもらう。
１８８５	９歳	父親がリヴァーモアの農場を購入し、家族が引っ越しする。その後、父親は農場の経営に失敗する。義姉のイライザから読書の楽しみを教えられたジャックは、オークランド市立図書館に通って本を読む。図書館で後に詩人になるイナ・クールバースと知り合い、彼女から読書の面白さを教えてもらう。
１８８６	１０歳	義姉の Eliza が Capt.John Shepard と結婚する。一家はオークランド市東１７番街に家を購入する。母親、女子行員のための下宿屋を営むが失敗する。
１８８７	１１歳	コール小学校に転校する。家計を助けるために、朝夕の新聞配達を始める。休刊日の週末は氷屋の配達係、ボーリング

		場のピン立てボーイとして働く。
１８８８	１２歳	サンフランシスコ湾で小舟で航海する。
１８８９	１３歳	小学校は卒業するが、貧困のために進学はできず、缶詰工場で１日、１４時間～１８時間働く。
１８９０	１４歳	学校を退学し、缶詰工場で働く。夜警であった養父ジョンが重傷を負ったため、ジャックが一家を養うこととなる。
１８９１	１５歳	かつての乳母プレンティスから３００ドルを借り、一本マストの帆船ラズル・ダズル号を友人フランクから買う。サンフランシスコ湾で、仲間のたちと牡蠣荒らしをはじめ、一夜で缶詰工場の賃金３ヶ月を儲けた。「牡蠣海賊の王子」と呼ばれるようになる。牡蠣荒らしの経緯については、事実関係が定かでない。
１８９２	１６歳	酒を飲み続けて海に落ちたが、死ぬ寸前で助けられ、数日後、牡蠣荒らしを取り締まる漁業監視観になったというが、この話も定かではない。
１８９３	１７歳	１月、ソフィア・サザランド号のアザラシ乗組員になり、小笠原諸島、ベーリング海を経て、横浜に着く。８月末、帰国するが国内は大不況のため、日給１ドルで、１０時間も織物工場で働き、自ら経験した幼年時代の悲惨な実際を再び目にする。（後の短編「背信者」にその様子が描かれる）母親の勧めと賞金ほしさに『サンフランシスコ・イグザミナー』紙の作品懸賞募集に応募し、三晩で「日本近海の台風物語」を書き、一位に入選する。
１８９４	１８歳	大不況が続く。オークランドの市街電車の発電所で、石炭運びの仕事に就く、１日に２人分に相当する１３時間も働き、月に３０ドル稼ぐ。それが原因で仲間の労働者２名が職を失い、そのうちの１人が自殺したことを知る。そこで仕事はやめ、４月、各地で始まっている失業者の「ワシントン行進」オークランドのケリー隊に参加する。途中、ミズーリー州で行進から離れ、ニューヨークへと放浪の旅を続ける。ナイアガラの滝を訪れた後、バッファローで放浪罪により逮捕され、３０日間の獄中生活を経験する。１２月、カナダを経由してオークランドに戻る。この行進や放浪の中で、社会主義やマルクスについて耳にし、自己の社会的位置を認識する。（これらの体験が、後の作品『アメリカ放浪記』に生かされる。
１８９５	１９歳	義姉イライザの経済的援助でオークランド高校に入学する。年下の生徒たちとなじめず、ジャックは、ダーウィン、ウィリアム・モリス、ラスキンらの本を読む。生徒文芸誌『イージス』に１０篇ほどのスケッチや短篇を書く。『共産党宣言』を読み、深い感銘を受ける。公立図書館では、最初の妻となるベス・マダーンと出会う。一方、級友の姉メイベ

		ル・アプルガースにも心を奪われ、交際を始める。
１８９６	２０歳	社会主義に接近。「少年社会主義者」と呼ばれる。社会党労働者オークランド支部に加入する。高校を中退し、アラメダにある予備校に通うが５週間で退学する。ベスに苦手な数学を教えてもらいながら、３ヶ月の猛勉強後、カリフォルニア州立大学バークレイ校に入学する。
１８９７	２１歳	２月、養父ジョンの病気による生活苦と英語教師への失望もあり、一学期で大学を中退する。一週間後に街頭で無届演説をし、逮捕される。作家で身を立てようと詩や短篇を書くが、東部の雑誌に受け入れてもらえず、月給３０ドルで、１日１４時間クリーニング屋で働く。おりからの金鉱発見の報に胸を躍らせ、イライザの夫と共に７月、クロンダイクへと向かう。費用の５００ドルは、イライザが自宅を抵当に入れて、捻出したものである。クロンダイクでは、鉱夫たちと社会主義について大いに論じあった。不在中に養父ジョンば病死する。
１８９８	２２歳	クロンダイクで壊血病にかかり、８月、４，５ドルほどしかない価値のない砂金を持って帰郷する。しかし、この体験は５年後の『野性の呼び声』をはじめ、多くのアラスカものの貴重な素材になる。帰国後、洗濯屋の下働き、窓ふきなどで家計を支えながら再び短篇を書き始めるが、雑誌社へ送った原稿はすべて不採用になる。１１月、ついに地元の文芸誌『オーヴァーランド・マンスリー』から「山道の男のために」他アラスカの物語７編、また、『ブラック・キャット』誌からは、「多くの死」を買うという通知を受け取る。
１８９９	２３歳	１月、「山男の男のために」が『オーバーランド・マンスリー』誌に掲載される。同月、月給６５ドルで内定していた郵便局員の仕事を断り、創作活動に専念。マルクス、スペンサーなどを読む。１０月、東部の有名な文芸雑誌『アトランティック・マンスリー』に「北国のオデユッセイ」が１２０ドルで売れる。また、ホートン・ミフリン社と、これまで書いた「アラスカもの」を集めた短編集『狼の息子』の出版契約を結ぶ。同月、スタンフォード大学の学生で、ロシア系ユダヤ人アンナ・ストランスキーと社会党労働者の会合で知り合い、以後、知的刺激を受ける。メイベルとの結婚を彼女の母親の干渉で断念する。
１９００	２４歳	婚約者に先立たれたベス・マダーン（愛称ベッシー）と４月に結婚。挙式当日の４月７日、『狼の息子』が出版され好評を博す。「クロンダイクのキップリング」、「ユーコンのブレット・ハート」と呼ばれる。『マックリュアズ・マガジン』に短篇２篇が売れ、同社から長編執筆の前渡しに１年間、月に１２５ドルを受け取る。社会労働党員で、後の再婚相手

		チャーミアンに初めて会う。講演活動を活発に行う。
１９０１	２５歳	１月、長女ジョーン生まれる。ジョーンは後に、著名な社会運動家となり、『ジャック・ロンドンとその時代』を残す。３月、結成されたばかりのオークランド選に出馬するが落選する。５月、『彼の先祖の神』をマックリュア社と、『雪原の娘』の出版契約を結ぶ。以後、前借りで生活することが多くなる。この年に「階級闘争」など社会主義的なエッセイを多数書く。
１９０２	２６歳	７月、ボーア戦争の取材を依頼され、南アフリカ赴くが、ニューヨーク到着前に契約解除となる。これを機に渡英し、ロンドン市の貧民街イーストエンドに潜入する。９月、『霜の子』、１０月、最初の長編『雪原の娘』出版。同月ベス（愛称ベッキー）誕生。
１９０３	２７歳	２月、丘陵宅地ピーモンドに転居。６月、アンナとの２年ごしの共作『ケンプトン＝ウェイス書簡集』を出版。『野性の呼び声』を１ヶ月で書き上げ、７５０ドルで、『サタディー・イブニング・ポスト』に掲載、７月にマクラミラン社から出版。発行当日で１万部、あわせて６００万部を売る。出版社の買値は２，０００ドル。この一作で一躍人気作家となる。毎週水曜日ごとに、邸宅でパーティーを開くなど浪費癖が激しくなる。チャーミアンとの恋愛関係に入り、妻ベスと別居する。１０月、イーストエンドのルポルタージュ『どん底の人々』を出版する。ジャックはチェイニーに２度手紙を出し、父親としての確認を求めたが、応じなかった。チェイニーは、その後、貧窮のうちに死亡する。
１９０４	２８歳	１月、日露戦争が勃発すると、ハースト系新聞の特派員として日本へ赴く。日本軍当局は、外国人記者の従軍に反対し、ジャックは門司で逮捕される。２月、朝鮮北部の新院（ショウアン）まで北進するが、京城まで連れ戻され、軍の監視下におかれる。６月、強制送還される。帰国後、反日感情の強い従軍記を書き、先鋭化しつつあった「黄渦論」を助長し、人種的偏見を唱導した、と社会主義陣営から批判を浴びる。ベスとの離婚手続きにともない、サンフランシスコ北方グレンエレンの山荘に別居する。１０月、『海の狼』を出版、初版は約６万３千部売れベストセラーとなる。ニーチェの作品を読む。
１９０５	２９歳	第１次ロシア革命と、その武力弾圧に強い関心を示す。３月、社会党から再びオークランド市長選に出馬するが落選する。グレンエレンの山中に１３０エーカーという広大な土地を買い定住する。９月、新しく結成された大学連合社会主義協会の初代会長に選ばれ、１０月、東部および中西部への講演旅行に出発する。その途上、正式に離婚が成立する。

		チャーミアンと１１月１９日、シカゴで結婚する。この結婚には、非難の声もあがる。１２月、２人はジャマイカ、キューバ、フロリダへと旅行する。
１９０６	３０歳	１月、カーネギーホールで、「革命」と題して講演し、多大な反響を呼ぶ。２月、講演旅行から帰ると、疲労が重なり、自ら設計した帆船スナーク号での世界旅行を計画する。４月、サンフランシスコに大地震。その現地ルポを『コリアーズ』誌に寄稿する。地震と火災による混乱状態は、『鉄の踵』や短篇「スロットの南側」や「デブスの夢」に役立つ。１０月、『白牙』出版。１２月、『鉄の踵』完成。
１９０７	３１歳	『鉄の踵』をリージェント・プレス社より出版する。２月、『アダム以前』を出版する。４月、建造費３万ドルを投じたスナーク号で、チャーミアンとともに太平洋に向けて出向する。ハワイのヒロでコックに日本人ワダ、キャビンボーイにナカタを雇う。マーケサス諸島、タヒチへ。１１月『アメリカ浮浪記』が出版される。
１９０８	３２歳	２月、『鉄の踵』マクミラン社より出版。負債整理のため、汽船で一時帰国。完成近い自伝的小説『マーティン・イーデン』の原稿や、スナーク号の航海記で前借りし、航海を続けるが、７月にマラリアにかかる。皮膚病に悩み、チャーミアンも高熱で倒れる。１１月、ロンドンはシドニーに到着後、シドニーに到着後、入院。退院後１２月、２人で世界ヘビー級選手権を観戦。記事を『ニューヨーク・ヘラルド』紙に送る。
１９０９	３３歳	シドニーでスナーク号を売り、チャーミアンとナカタを連れて南米へ。７月帰国。前借りでの約束を果たすため、１日９時間、１日千語の割合で執筆活動に専念。しかし、以後は凡作が続く。９月、『マーティン・イーデン』出版。１２月、「ひと切れのビフテキ」が雑誌に掲載された。
１９１０	３４歳	当時２５歳のシンクレア・ルイスを知り、短篇用物語の構想２７本を買い、ほとんど金銭のために書き続ける。６月チャーミアンが女児を出産するが、赤子は３日後に死亡。農場経営に強い関心を持ち、３万ドルを投じ農場建設に努力し、さらに３万ドルを投じ「狼城」（ウルフハウス）の建造に着手。１０月、長編『燃える昼光』を出版。
１９１１	３５歳	２月、メキシコ革命に共感する公開書簡を発表し、社会主義者としての健在ぶりを発揮。南海航海中に書いた『南海物語』、『スナーク号航海記』を出版。
１９１２	３６歳	３月、チャーミアンと共にケープホーン回りの約５ヶ月におよぶ航海に出る。８月、チャーミアン流産。
１９１３	３７歳	８月、総建設費７万ドルをかけた「狼城」が完成するが、その夜、不審火で焼失。年収は７万５千ドルにも達し、世界

		で最も高給取りの作家になるが、牧場事業の失敗、人件費などで、手元には数百ドルしか残らない。『海の狼』の無断映画化を知り、著作権を守るため、結成したばかりのアメリカ作家同盟に参加し活動する。ニューヨークでアンナと再会。自伝的小説『ジョン・バーリコーン』、長篇『月の谷』を出版。
１９１４	３８歳	４月、長篇『星を駆ける者』を完成した後、アメリカ軍のメキシコ革命介入に際し、『コリアーズ』誌の特派員として現地取材を依頼される。ヴェラクルスに渡ろうとするが、前年にジャックが書いたと噂された反軍的評論が原因で、記者証の発行が遅れる。現地通信では白人優越主義の傾向を見せ、米国の軍事介入を支持し、革命軍を罵倒して、社会主義陣営を失望させる。６月赤痢と肋膜炎にかかり帰国。第一次世界大戦が始まると、連合軍を支持し、ドイツ帝国を非難する。
１９１５	３９歳	２月、健康回復のためにハワイで数ヶ月を過ごす。義姉イライザとチャーミアンと不仲になる。執事役のナカタが医大入学のために辞め、代わりに同じ日本人青年セキネを雇う。７月、グレンエレンに戻る。１０月、前年完成したＳＦ的な長篇『星を駆ける者』出版。１２月リユーマチ、尿毒症にかかり、療養のため再びハワイへ。
１９１６	４０歳	３月ホノルルから社会党グレンエレン支部に脱退届を郵送。9月、グレンエレンに戻る。腎臓結石による激痛に襲われ、禁酒を命ぜられる。モルヒネで痛みを抑え、深酒を続けたというが、酒量は減ったという説がある。Glen Ellen の農場で永眠する。１１月２１日夕刻、イライザとチャーミアンとの談笑の後に、チャーミアンと口論して自室にこもる。翌朝セキネが昏睡状態にあるジャックを発見。A．M．トムソン医師の死亡診断書は尿毒症となっているが、後日、同医師は、モルヒネの大量摂取による服毒死だったと語る。遺体は「狼城」廃墟近くに埋葬される。

出典：『ジャック・ロンドン』、ジャック・ロンドン研究会編、大浦暁生監修、年表担当：斎藤忠志、内野信幸

The Wit and Wisdom of Jack London, Margie Wilson, Wordsworth